

2022年度春学期 授業に関するアンケート総評

同志社女子大学 教育開発支援センター長
和氣 早苗

はじめに

「授業に関するアンケート」は、個々の授業改善を第一の目的として実施されているが、全体を俯瞰することにより、全学的な傾向や各学科の特徴を見ることができ、それによってカリキュラムの妥当性を確認したり、FDの方向性を見いだすことができると考えている。

今回2022年度秋学期は、近年落ち続けてきた授業アンケートの回答率を上げるべく回答率向上キャンペーンを実施した。その結果を含む7項目について、総評を述べる。

※アンケートの方法

- 原則として全科目で実施
- 授業第13,14,15週目での実施（2022.7/11～8/5）
- 「第14回目の授業開始時」の実施を推奨して教員に依頼
- マナビーを用いたオンライン形式
- アンケートの質問項目と回答方法は本報告末の付録1に記載

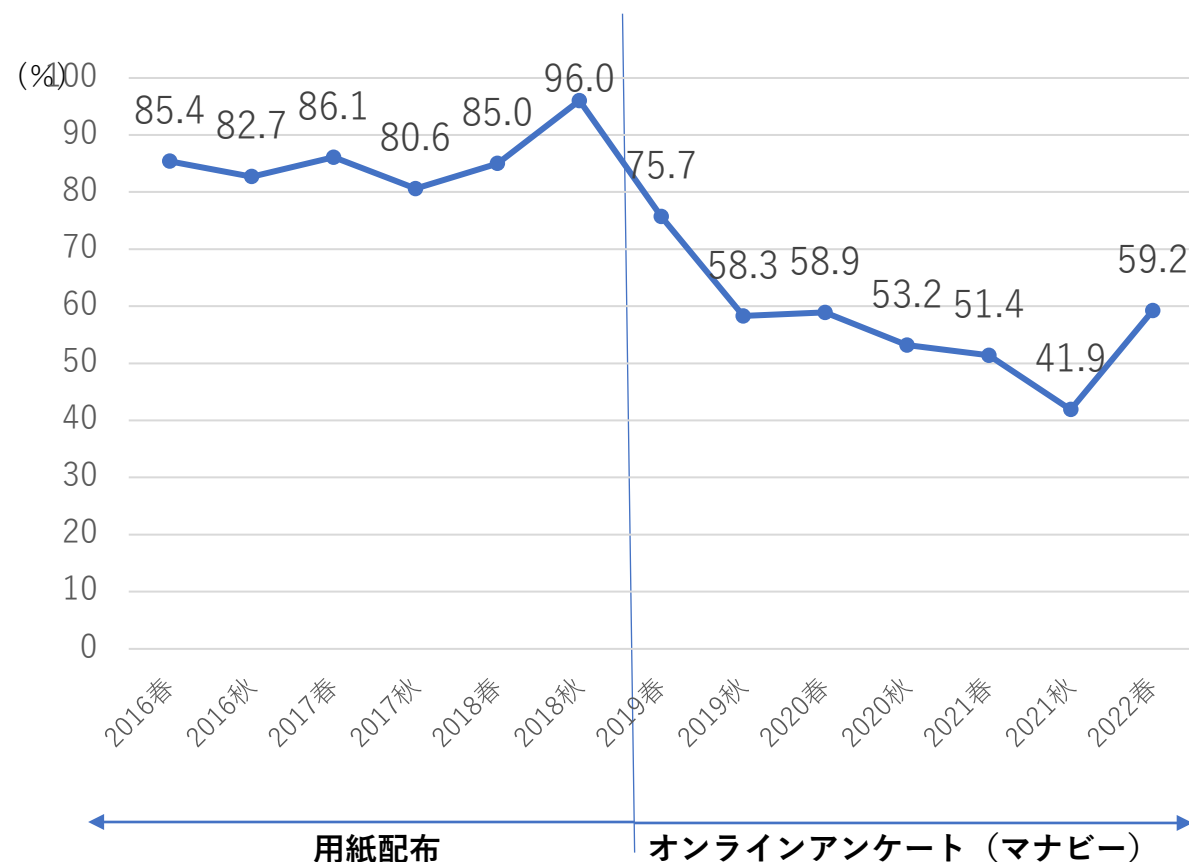
総評

今期授業アンケートの総評のまとめとして以下の7点を挙げる。
また、各項目の詳細について次ページ以降に述べる。

- (1) 授業アンケート回答率の低下に歯止め、しかし 59.2%**
- (2) 授業アンケート 国際教養学科、食物科学専攻の回答率が高い**
- (3) 全学総評価平均はますます良好**
- (4) 「教職に関する科目」が高評価**
- (5) 学科では国際教養学科、英語英文学科が高評価**
- (6) 全学的に授業で向上した力(DWCLA10)は思考力**
- (7) 国際教養学科、教職科目で複数のDWCLA10が向上**

(1) 回答率の低下に歯止め、しかし 59.2%

- 今期回答率… 59.2%
- 目標とした 75% には届かなかったものの、オンライン化以降の**減少には歯止め**がかかり、オンライン化以降で、2番目の回答率。
- **アンケート回答キャンペーン（以下）に一定の効果**があったと思われる
 - ①第14週目の授業の冒頭で実施する「アンケート実施の標準モデル」を提示推奨
 - ②専任教員には第14週目に毎朝、実施依頼のメールを送付
 - ③嘱託講師に対しては、アンケートの実施を促す「依頼文書」を第13週目に配布
- 75%（オンライン化初回）を目標とした対策を引き続き検討、実施する。

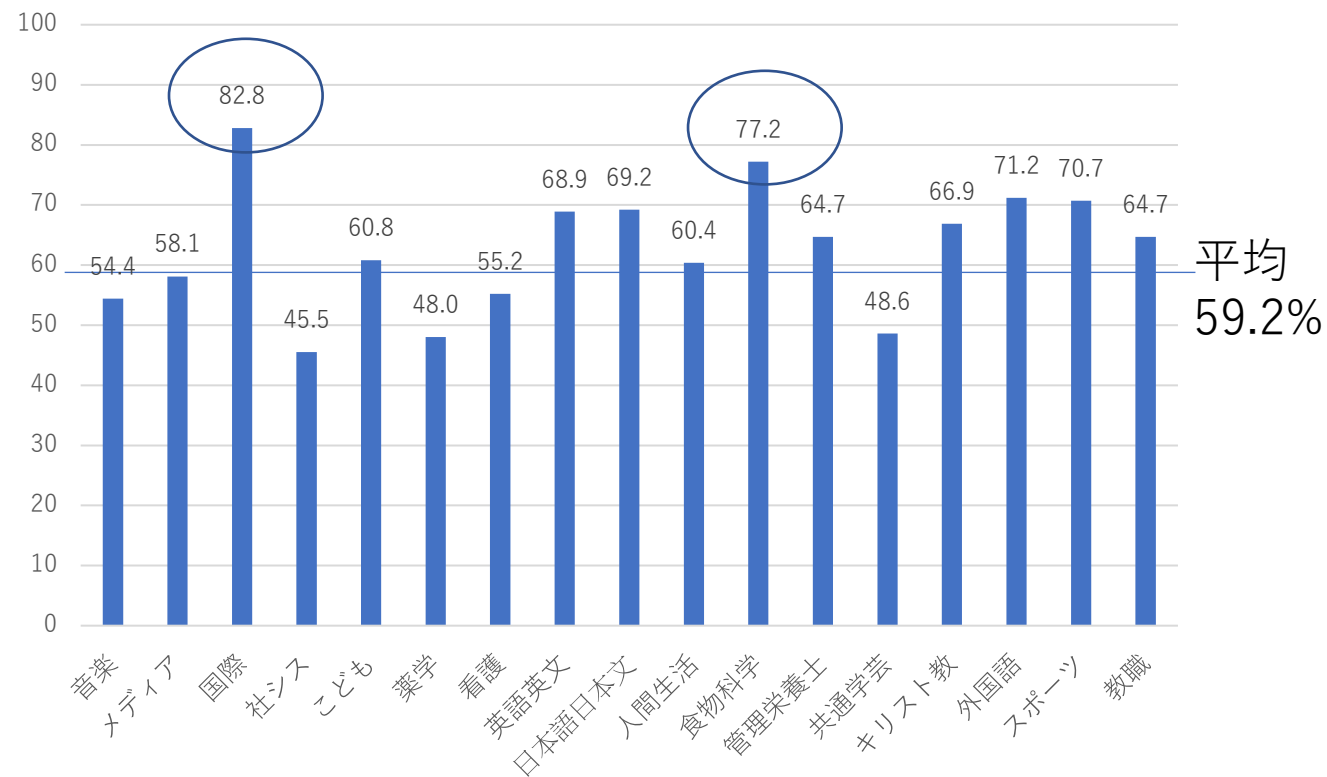


(2022年度春：のべ履修者数60,164, 回答数35,625)

授業アンケート回答率の推移

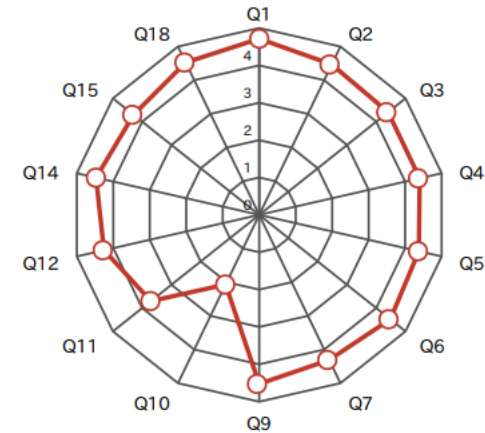
(2) 国際教養学科、食物科学専攻の回答率が高い

- 国際教養学科 82.8%、食物科学専攻 77.2% の回答率
- 外国語、スポーツ科目が 70%超
- 授業形態により、実施が難しい場合があるかもしれない。これらについて調査を行いたい。
- 基本的には、第14回の授業冒頭に5-10分程度の時間をいただき、「いま回答」するように声をかけていただくことを引き続き教員に依頼したい。



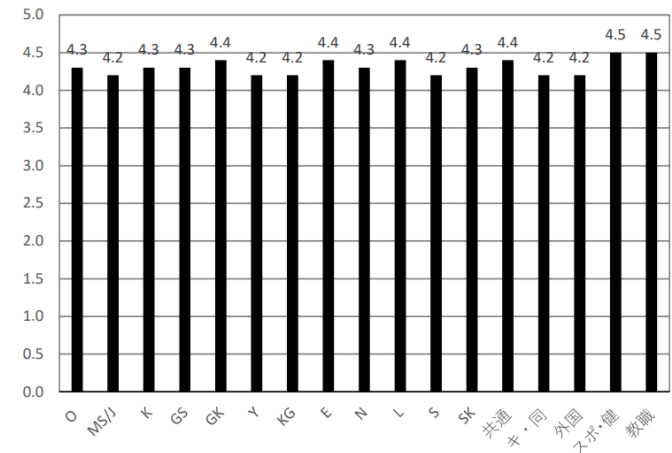
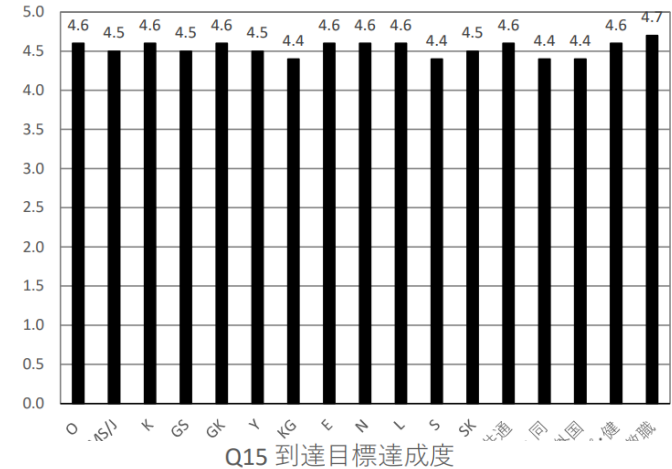
(3) 全学総評価平均はますます良好

- 全体俯瞰では、ほとんどの質問で平均評価 4 を超えており、総括としてはますます良好な結果と思われる。
- 特に、授業に対する満足度を問うQ9、そして到達目標を達成できたと思うかを問うQ15、の評価が学科を問わず良好である点、評価してよいと思われる。
- なお、低評価に見えるQ10は、自学習時間を問うもので、別途度数分布データ（掲載なし）によると、選択肢1(30分未満)が40%程度、選択肢2(30分-1時間未満)が25%という回答だった。



全学評価平均
(各質問項目は付録1参照)

Q9 満足度



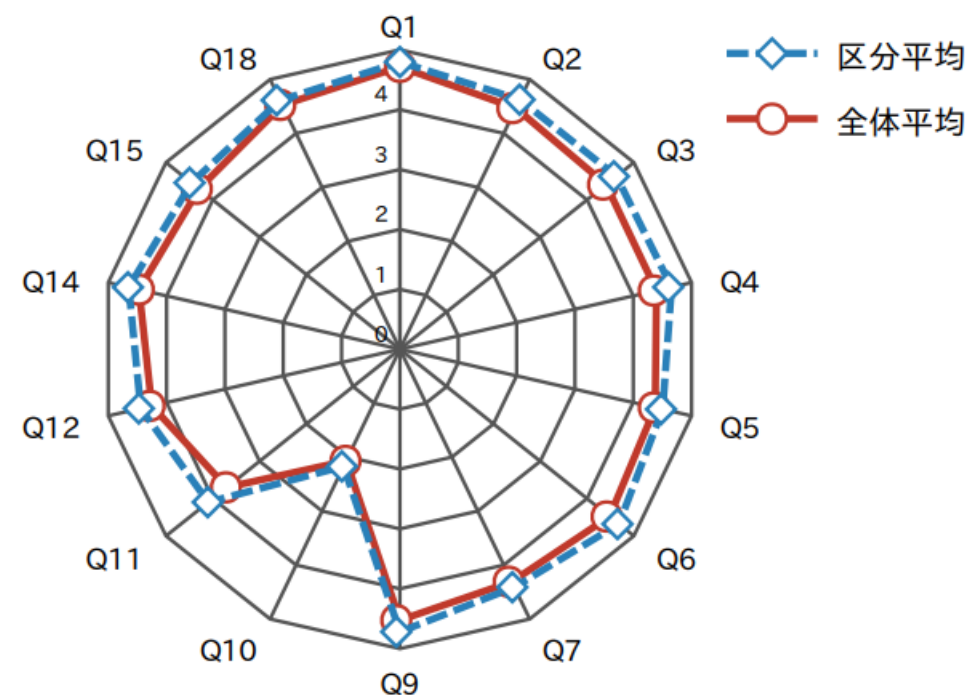
満足度（上）、達成度（下）
学科別平均

(4) 「教職に関する科目」が高評価

- 「教職に関する科目」が満遍なく評価が高かった。ほとんどすべての質問項目でトップ評価であった。

(前回(2021年度秋)のアンケート総評では、学科比較のみ行だったが、今回、科目区分も含め比較を行った)

→担当する教員の努力と工夫に敬意を表したい。また、向上した力の項目でも述べた通り、学生の授業対するモチベーションが高いことも一つの理由かとも考えられ、それら教員と学生の意欲の相乗効果にて、高評価が得られているのではないかと考える。



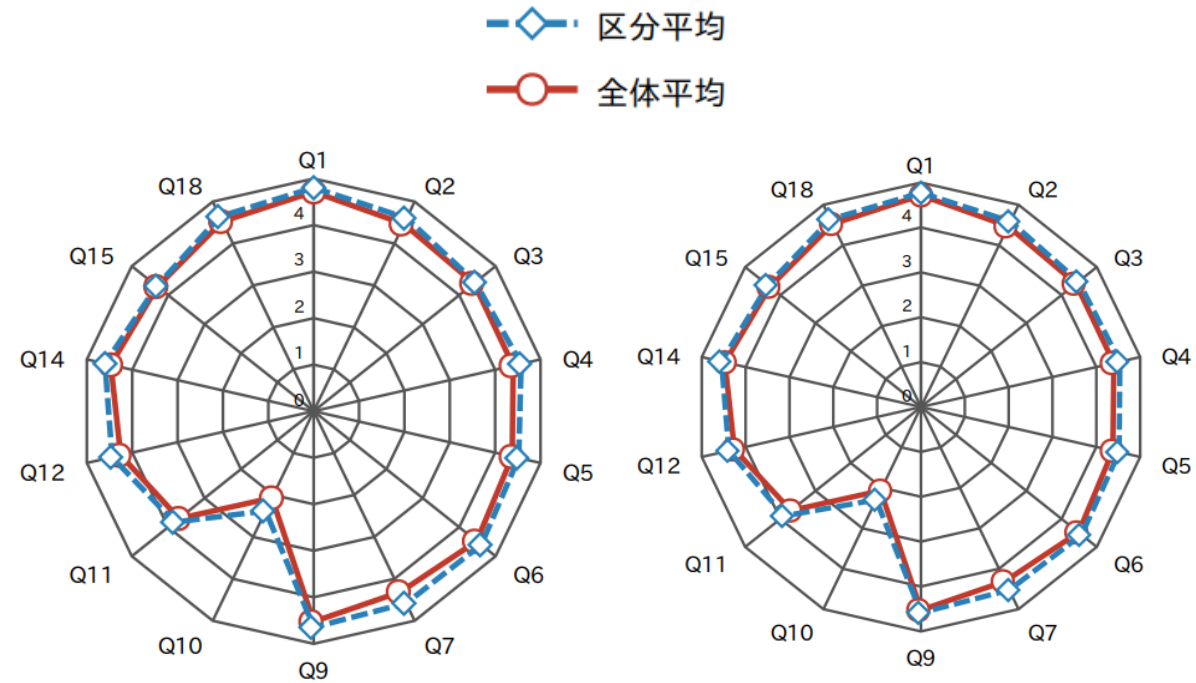
教職に関する科目 集計結果
(各質問項目は付録1参照)

(5) 国際教養学科、英語英文学科が高評価

- 学科のみでの比較では、前回に続いての国際教養学科に加え、英語英文学科の評価が全体的に高かった。英語英文学科は5つの質問項目でトップポイントを得た。
- 2学科に共通してトップポイントの項目は以下の4項目であった。

シラバスとの合致度、授業理解度確認、フィードバック、関連分野学習意欲

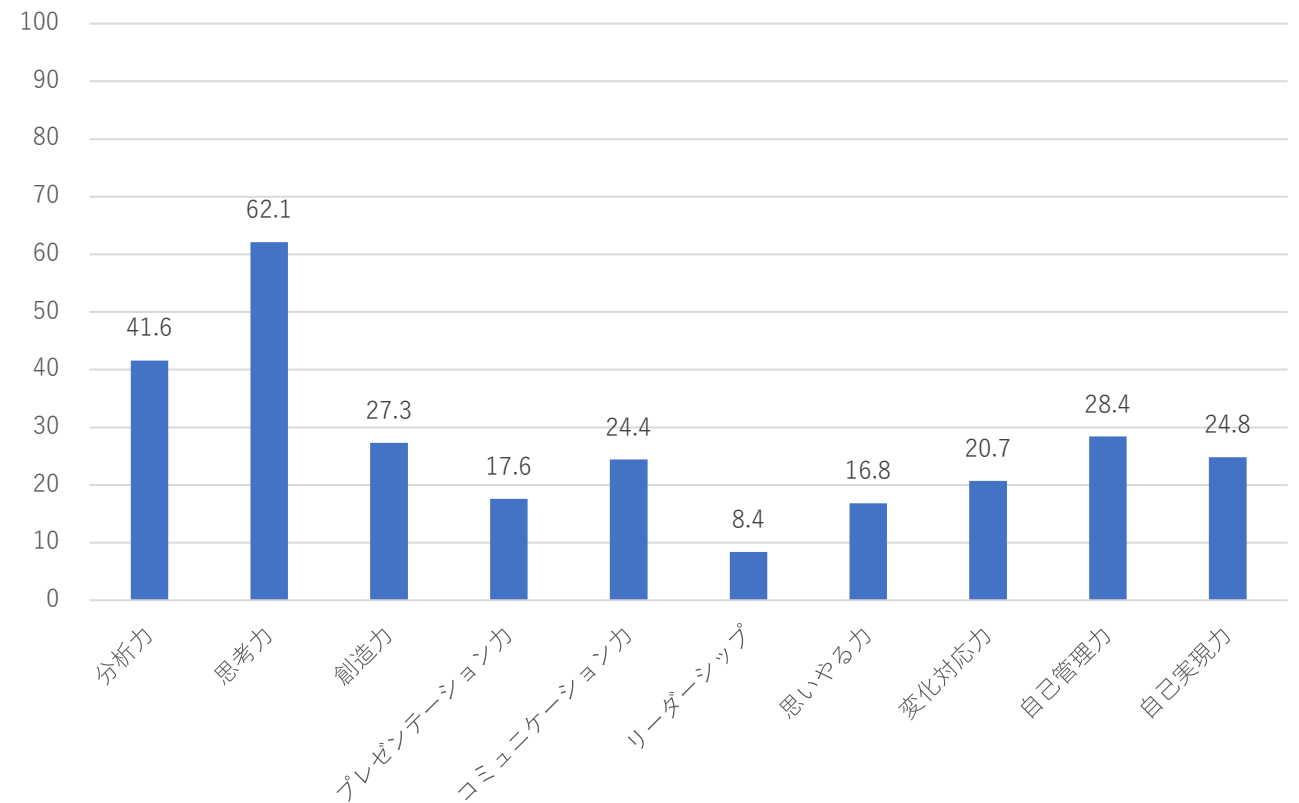
→授業理解度を確認しながら丁寧にフィードバックを行っている教員の姿勢がうかがわれる。



(左) 国際教養学科科目 (右) 英語英文学科
集計結果 (質問項目は付録1参照)

(6) 授業で向上した力(DWCLA10)は思考力 (全学平均)

- 授業で伸びたと感じる力は、
思考力(62.1%が選択)が最も多く、次いで
分析力(41.6%)であった。
→分析と思考は基礎として必要な力で、多くの
授業の範疇でもあるためだろう。
- 残りの項目についてはいずれも30%を下回って
いる。
→それぞれの授業に特徴があるため、必ずし
も全体平均が高くある必要はないが、**プレゼン
テーション力、自己管理力**などは、様々な授業で
対象とすることが可能とも考えられるため、評価
を上げる工夫もできるのではないかとと思われる。



授業によって向上が感じられた力 (DWCLA10) (%)

(7) 国際教養学科、教職科目で 複数のDWCLA10が向上

力が向上したと感じた受講生が最も多い科目区分

- **国際教養学科科目**が分析力、思考力など、**教職科目**が、変化対応力、自己実現力など各4項目でトップ評価。

→教職科目で多くの力が向上したと感じている学生が多い。実習も含まれ、また目標が明確であることもその理由かもしれない。

学科という区分では国際教養学科が前回に引き続き高評価を獲得している。

- 創造力は、メディア創造学科、プレゼンテーション力は、国際教養学科、思いやる力は、看護学科、変化対応力は、教職科目、が高選択率。

→各学科の特色を表した評価結果と見える。各学科の強みを維持し、さらに伸ばす努力を期待したい。

DWCLA10	選択率が最も高い学科科目
分析力	国際教養学科科目
思考力	国際教養学科科目
創造力	メディア創造学科科目
プレゼンテーション力	国際教養学科科目
コミュニケーション力	スポーツ・健康
リーダーシップ	教職科目
思いやる力	看護学科科目
変化対応力	教職科目
自己管理力	国際教養学科科目
自己実現力	教職科目

おわりに

2022年度秋学期の授業に関するアンケートの総評として、7項目を挙げ、その内容を述べさせて頂いた。

アンケートのWeb化より3年間落ち続けていた回答率を回復させることが、今回の大きな目標だったが、なんとか減少に歯止めをかけることができた（59.2%）。アンケート結果の信頼性を担保するためにも、回収率75%の目標を目指して引き続き対策をうっていく所存である。

今回の総評においても、全学的な傾向と、学科の傾向がある程度読み取れる。各教員が個別の結果に基づいて授業改善を行っていただくことはもちろんだが、学科というまとまりでも、振り返りの機会において本総評を参考にしていただけたらと考えている。

付録1：アンケート項目 と 回答基準(次ページ)

Q1	授業内容はシラバスに合っていましたか。
Q2	受講生の理解度を確かめながら授業が進められていましたか。
Q3	授業レベルは自分に合っていましたか。
Q4	教員からの一方向的な授業ではなく、教員と受講生又は受講生同士の双方向性に工夫がされていましたが。
Q5	提出物に対するフィードバック（採点、添削、マナビーでのコメント、チェック後の返却など）は効果的に行われていましたか。
Q6	言葉による説明だけでなく、受講生の理解を促進する工夫がなされていましたが。
Q7	自主学習を促す工夫がなされていましたが。
Q8	工夫してほしいと思ったことを選んでください（複数選択可、なしも可）。 1.分かりやすいパワーポイントや板書 2.聞き取りやすい話し方 3.教科書や配布資料の活用 4.マナビーの活用 5.トラブルへの対応
Q9	この授業は全体として満足できる内容でしたか。
Q10	この授業の予習、復習、自主学習（授業時間90分を除く）に1週当たり平均どれくらい時間をかけましたか。
Q11	あなたはこの授業に関して積極的に意見を述べたり質問をしたりしましたか。
Q12	あなたはこの授業の分野又は関連分野の学習を更に深めたいですか。
Q13	あなたがこの授業を履修した理由は何ですか（複数選択可）。 1.授業内容に興味・関心があった 2.授業方法に興味・関心があった 3.成績評価方法・基準に興味・関心があった 4.先輩や友人等の勧め 5.卒業又は免許・資格の取得に必要なだから
Q14	到達目標を達成しやすいように指導がなされていましたが。
Q15	あなたは到達目標を達成できたと思いますか。
Q16	DWCLA10の内、この授業の履修を通してその獲得や向上に役立ったと感じられるものをすべて選んでください（複数選択可、なしも可）。*15番と16番は1つの質問として回答してください。 1.分析力 2.思考力 3.創造力 4.プレゼンテーション力 5.コミュニケーション力
Q17	（16番続き）DWCLA10のうち、この授業の履修を通してその獲得や向上に役立ったと感じられるものをすべて選んでください（複数選択可、なしも可） 1.リーダーシップ 2.思いやる力 3.変化対応力 4.自己管理力 5.自己実現力
Q18	※遠隔で授業が行われた場合のみ回答してください。 遠隔での授業は滞りなく行われましたか。
Q19	任意項目
Q20	自由記述欄（上記回答の理由など、特記事項があれば記入してください。）

5: そう思う Agree 4: ややそう思う Somewhat Agree 3: あまりそう思わない Somewhat Disagree 2: そう思わない Disagree その他: 未回答 Unanswered

5.分かりやすいパワーポイント板書 Effective use of teaching aids such as power point slides or boardwork

3.教科書や配布資料の活用 Effective use of textbook and handouts

2. マナビーの活用 Effective use of Manavi system

1.トラブルへの対応 Trouble shooting

その他:未回答 Unanswered

5.3時間以上 3hrs. or more.

4.2時間以上3時間未満 2hrs. to less than 3hrs.

3.1時間以上2時間未満 1 hr. to less than 2 hrs.

2.30分以上1時間未滿 30min. to less than 1 hr.

1.30分未滿 less than 30min.

その他:未回答 Unanswered

5.授業内容に興味・関心があった Interest in the class contents

4.授業方法に興味・関心があった Interest in the method of class instruction

3.成績評価方法・基準に興味・関心があったInterest in the grading method

2.先輩や友人等のすすめ Recommendation from seniors or friends

1.卒業又は又は免許・資格取得のための必修科目だから Requirement for the graduation and specific license or qualification

その他:未回答 Unanswered

5.分析力 Analytical ability 4.思考力 Thinking power 3.創造力 Creative ability 2.プレゼンテーション力 Presentation skill 1.コミュニケーション力 Communication skill

その他:未回答 Unanswered

5.リーダーシップ力 Leadership 4.思いやる力 Capacity for compassion 3.変化対応力 Responding to change 2.自己管理力 Self-management power

1.自己実現力 Ability for self-realization その他: 未回答 Unanswered

付録2：学科および科目区分の略称

略称	学科および科目区分
O	音楽学科科目
MS/J	メディア創造学科/情報メディア学科科目
K	国際教養学科科目
GS	社会システム学科科目
GK	現代こども学科科目
Y	医療薬学科科目
KG	看護学科科目
E	英語英文学科科目
N	日本語日本文学科科目
L	人間生活学科科目
S	食物栄養科学科食物科学専攻科目
SK	食物栄養科学科管理栄養士専攻科目
共通	共通学芸科目
キ・同	キリスト教・同志社関係科目
外国	外国語科目
スポ・健	スポーツ・健康科目
教職	教職科目